



平成30年適塾特別展示

戊辰戦争〜西南戦争をめぐる

適塾関係者たち

軍制と医療から



今から150年前、1868年に勃発した戊辰戦争に勝利した明治政府は、日本の近代化を推し進めました。その変革は不平士族という反乱分子も生みましたが、明治10年(1877)の西南戦争を機に、政権は一定の安定を得ます。この二つの内戦に、適塾関係者は主に軍制と医療の双方から重要な関わりをみせます。大島圭介と大村益次郎は戊辰戦争で各軍を指揮し、高松凌雲と佐野常民は各戦争で赤十字の博愛主義を実践しました。その間、大村は近代軍制の確立を方向付け、緒方惟準(洪庵次男)は軍医の養成に当たりました。本展覧会では、両内戦にまたがる適塾関係者の活動を通じて、戦争と平和について見つめ直す機会とします。

会期 5/29(火) - 6/10(日)

会場 適塾 (史跡・重要文化財)
開館時間: 10時~16時
大阪市中央区北浜3-3-8
電話 06-6231-1970

入館料 一般 260円(140円)、高校生・大学生等 140円(80円)
※()内は20名以上の団体料金、要事前申込み、詳細はホームページ参照
小学生・中学生 無料 ※中学生以下の方は引率者が必要
大阪大学の学生 無料 ※要学生証提示



佐野常民肖像、大島圭介肖像、大村益次郎肖像: 国立国会図書館「近代日本人の肖像」<http://www.ndl.go.jp/portrait/>
高松凌雲肖像: 日本史籍協会編「高松凌雲経歴談・函館戦争史料」 明治45年(1912複製) (1979発行)
緒方惟準肖像: 緒方銈次郎編「山家集」 明治44年(1911) (1977年複製)

適塾特別展示

戊辰戦争～西南戦争をめぐる適塾関係者たち —軍制と医療から—

国産初の蒸気船をつくった佐野常民所蔵の化学書『^{せいみかいそう}舎密開宗』

佐賀藩に生まれた佐野常民(1822-1902)は、藩政改革を進める藩主・鍋島直正の命により、大坂や江戸で蘭学修行を行いました。帰藩後は精錬方の主任となって様々な理化学実験を行い、三重津海軍所の監督として初の国産蒸気船・凌風丸を完成させるなど、近代的海軍の創設に寄与しました。『舎密開宗』は宇田川榕庵(洪庵の師・玄真養子)が天保8～弘化4年(1837-47)に記述した日本初の体系的な化学書です。幕末・維新期の医学・薬学・軍事・製造に利用され、現在でも使用する元素、酸素、物質、酸・アルカリ、酸化・還元といった用語が登場するなど、大きな影響を与えています。

宇田川榕庵記述『舎密開宗』 天保8～弘化4年(1837-47)
(大阪大学附属図書館所蔵)



幕府・講武所で師範を勤めた西洋兵学者・村上代三郎

村上代三郎(1826-1882)は、天保11年(1840)に適塾に入門した初期の塾生です。嘉永2年(1849)、適塾の後輩で後に幕府歩兵奉行となる大鳥圭介(1833-1911)とともに江戸に赴きます。そこで蘭方医・伊東玄朴や砲術家で葦山代官の江川英龍と親交を持ち、安政4年(1857)には講武所の師範に招へいされ、西洋兵学を教えました。講武所とは、ペリー来航を機に幕府が安政元年に開いた武術練習所で、洋式訓練が行われました。

講武所から村上代三郎への賞状 年末詳(幕末)
(大阪大学適塾記念センター所蔵(村上仟三氏旧蔵))



暴徒に襲われ瀕死の大村益次郎が最期に訴えをつづった書状

長州藩の軍制改革を担い、戊辰戦争で旧幕府軍追討の指揮をとった大村益次郎(1825-69)は、^{ひょうぶのたいふ}兵部大輔として明治政府の軍制確立を主導しました。国民皆兵の徴兵制実施を目指しましたが、明治2年(1869)に京都で襲われ負傷します。大村は大阪仮病院へ移送され、オランダ人軍医ボードインと緒方惟準から右脚切断手術など治療を受けましたが、まもなく志半ばで死去しました。これは切断手術直前の大村絶筆の書で、不安定な筆跡から容態の深刻さが窺えます。内容は右大臣・三条実美に軍事病院の必要性を建言したもので、翌年に大阪軍事病院が創設されました。

三条実美宛大村益次郎書状(複製) 明治2年(1869)
(教行寺所蔵(中山沃氏旧蔵))



軍医として西南戦争に従軍し軍医養成に当たった緒方惟準

洪庵の嗣子・緒方惟準(1843-1909)はオランダ・ユトレヒト陸軍軍医学校に留学し、軍医として活躍しました。明治6年(1873)には陸軍軍医学校の専務(校長相当)として、軍医養成にも努めています。近代的装備を用いて激戦が繰り広げられ多大な死傷者を出した明治10年の西南戦争では、佐野常民が博愛社(のちの日本赤十字社)を設立して、両軍の救護活動に当たったことはよく知られますが、惟準も政府軍に従軍して前線の負傷兵を治療しています。『軍医須知』は惟準が兵士の摂生法や、兵士の病気の症状とその治療法を記載したもので、軍医への講義内容だと思われます。

緒方惟準纂輯『軍医須知』初編(陸軍病院官版) 明治前期
(教行寺所蔵(中山沃氏旧蔵))

